

# らえるらえる

Well Well

第3号



Photo by 中西則夫 (CAPD)

丸山千枝田 (三重県紀和町)

瑠実ちゃんのぼやき!

坂井瑠実



お気持ちだけいただいております … 皆さんはどのような場面を想像されますか？誰かがナースステイションにお世話になったと言ってお菓子を  
 持って来られた時の婦長の言葉？？？ いえいえ実はこれ、ある病院で、  
 臨終間じかの患者さんのご家族が役立ててほしいと“意思表示カード”を  
 示しながら腎提供を申し出られた時の主治医の言葉なのです。せっかくの  
 善意の申し出が活かされることなく終わってしまうのはなんとしても残念  
 許せないと思うのは、兵庫県でこのようなケースが既に6件もあつたと聞  
 くことです。脳死法案が成立してなぜか腎移植は一層少なくなり、特に移  
 植先進県を誇っていた兵庫県はここに来てワーストいくつかの県に数えあ  
 げられるぐらい腎移植は低迷しているのが現状です。どんなに主治医がく  
 たびれていても身近にコーディネータがいれば電話を一本掛けるだけで自  
 動的に移植のシステムが動き出すはず、善意の申し出を決して無駄にする  
 ことなく活かせるようにする方法は、その気になればそれほど難しい事では  
 ないはずですよ！合併症が出現する手前、希望すればそれほど待た  
 なくても腎臓移植が可能な時代に早くなつてほしいものです。ところで皆  
 さん！皆さん及び皆さんのご家族は意思表示カードをお持ちでしょうか？  
 ドナーになってくださいと言うものではありません。ご自分の意思をはつ  
 きり表すものです。

既にご存知の方々も多いと思いますが、毎週水曜日、神戸大学でな  
 がく腎移植に関わってこられた樋口先生の腎移植外来を始めています。一  
 般の泌尿器科のみならず移植の相談等お気軽に外来へお越し下さい。長期  
 透析者には腎臓癌の発生が非常に多いですので、年一回のお誕生日検査には、  
 かならず小林先生の副甲状腺検査に加えて樋口先生の外来も予定に入れた  
 いと思います。可能であれば移植の登録、更新等院内で出来ると良いと思  
 っています。

## ●第13回日本サイコネフロロジー研究会開催

前号でお知らせしたように、坂井瑠実院長が大会長の「第13回日本サイコネフロロジー研究会」が7月30日松方ホールで開催された。

今回のテーマは「長期透析者のこころ、からだ、人生」。過去の研究会と異なり、透析医療従事者だけでなく、患者さんとその家族も参加して熱心にディスカッションに耳を傾けた。

午前の部、「長期透析者である透析医療従事者が語るわが人生」では精神科医春木繁一先生と当院の臨床心理士宮本茂子先生が座長をつとめた。透析歴29年の当院の近藤宏二技師や、春木先生を含めて2人の医師、看護師、栄養士、それぞれ異なる職業を持ちながら長年透析を続けてきたパネラーが貴重な意見をのべた。

午後のトークTOトーク「透析者のいる家族」では増子記念病院の伊藤見先生が座長となり、臨床心理士の黒木賢一先生がコメンテーターとなって、夫婦共に透析者、夫が透析者の4家族のそれぞれの思いが語られた。

特別講演は心療内科の岸本寛史先生の「病という体験」。医療を行う上で病という体験が持つ意味についてスライドを使って興味深い話をされた。

当日おりの土砂降りにもかかわらず、ホールの定員をはるかにオーバーする参加者が全国から集まった。受付に殺到する参加者の様子は、ワールドカップさながらの熱気だったとか。日本サイコネフロロジー会長の太田和夫先生はこの研究会の歴史始まって以来の大盛況と言われた。会場に入りきれない人は館内の椅子をかき集めてロビーのモニター映像で研究会に参加した。

当日のビデオを作製中である。当日参加できなかった方、ご希望の方にお分けしたいと思っている。悪天候の中来場くださった腎友会のみなさん有難うございました。小さなクリニックで何とか研究会をやり遂げた職員の皆さん本当にこころうさまでした。

## みのり？かなえ？

### 居宅介護支援事業所 みのり（えがおの窓口）

在宅サービスの利用者が、介護保険の 在宅サービスを適切に利用できるように、利用者の依頼を受けて、ケアマネジャー（介護支援専門員）が、ケアプラン（居宅サービス計画）を作成します。

★みのり★は、1階受付前に事務所があるよ！

### かなえ訪問介護事業所（ホームヘルプサービス）

訪問介護員（ホームヘルパー）が利用者の自宅を訪問して、入浴・排泄・食事などの介護・調理・洗濯・掃除などの家事、生活などに相談・助言などの必要な日常生活の世話をを行うサービスです。

★かなえ★は、4階ハイム御影内に事務所があるよ！

### ちなみにちよつと余分なおしやべり

あんしんすこやかセンター（在宅介護支援センター）神戸市が運営を委託している公的な相談窓口です。お住まいの身近なところで福祉の専門職や看護師などの資格をもつセンターの相談員が高齢者やその家族からの介護などに関する相談にのるとともに、関係機関と連携し、「あんしんすこやかプラン」などの保健福祉サービスの利用手続きを行います。

# 第三回患者会総会のご報告

坂井瑠実クリニック患者会「友愛会」

会長 枋谷 浩一

去る平成一四年四月七日（日）午後一時より、東灘区民センター多目的ホールに於いて、『友愛会』二〇〇二年度第三回定期総会を開催しました。友愛会も平成十年十二月に発足してから昨年クリニックと同じく三周年を無事迎えることができ、この総会も三回目の開催となりました。これも、会員の皆様および病院スタッフ様のご理解とご協力のおかげだと心より感謝しています。

本年の総会は九十六名（委任状出席を含む）の出席をいただき盛況の中で開会しました。例年通り議案書をもとに、議事進行し決議をいただき、会則改定案では出席者の皆様より活発なご意見・ご提案をいただきました。

今年度の活動方針は、例年とさほど変わりないですが、特に重点をおきたいのは、医療制度改革におけるこの四月からの診療報酬改定についての我々の活動および意識の改革です。

この改定で患者自身の負担増だけでなく、透析の質までが脅かされ、いつまでも安心して、この施設でも同じ透析が受けられると言った環境は壊れつつあります。今この状況をもっと患者自身が危機意識をもって、病院と互いに協力し合いこの状況を改善できるような活動に取り組む必要があります。

これから、新しい幹事一同協力して、より良い透析ライフが出来るよう頑張つて行きますので、会員の皆様、院長はじめスタッフの皆様、これからもご指導・ご協力のほどよろしくお願い致します。

最後に、午前中の勉強会および総会後の講演会を開催していただきました院長はじめスタッフの皆様誠にありがとうございました。そして、ご出席の皆様お疲れ様でした。



## 【食中毒について】

食中毒菌が爆発的に増殖しやすい暑さと湿度の季節です。もっとも季節を問わず冬場でも発生していますが、10℃～50℃の温度帯は食中毒菌のほとんどにとって快適な温度です。食中毒を発症すると老人、乳幼児、妊娠中の方、免疫力の低下している方では、重症になりやすく生命を落とすことにもなりかねません。日頃の健康管理も重要です。食中毒菌は目にも見えず、臭いもないので、食品の取り扱いには細心の注意を払わなければなりません。

食中毒を予防する3大原則

- ① 清潔  
(手、調理器具など清潔に。手や調理器具、その他物を介しての二次汚染に注意！)
- ② 迅速  
(新鮮な食材を迅速に処理し、適切な温度で冷蔵しましょう。生鮮食品は最後に買い、できるだけ早く冷蔵庫・冷凍庫へ。加熱後は放置せず、早い目に食べましょう。)
- ③ 冷却、加熱  
(冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下で。ただし冷蔵庫の過信は禁物です！加熱は中心温度が1分以上75℃持続するまで。保温は65℃以上で。多量に作ったものは速やかに冷却し、小分けして冷蔵、冷凍しましょう。)

加熱調理したからといって油断は禁物です。中には加熱に強い菌や、菌は死滅しても毒素が残るものもあります。

また、最近は抗菌グッズなどが多種類登場していますが、全ての種類の菌が悪さをするわけではありませんので過剰に反応しなくてもよいでしょう。=

## 栄養ミニクイズ答え ☑

電子レンジは加熱ムラがおきやすいので、時々かき混ぜたり中心部の状態を確認しながら加熱しましょう。

## 好評！フラワーアレンジメント教室2年目突入！

クリニック正面玄関のお花を入れていただいている先生（浜田良子先生：フラワースタジオオ歌夢主宰）を昨年5月より講師にお迎えして、坂井瑠実クリニック3階会議室にて毎月1回第2日曜日にフラワーレッスンをしています。

ご興味のある方はどなたでも結構ですので、是非一度気軽にのぞいて見てください！！！！  
●お問い合わせ ●Dグループ（火・木・土 準夜透析）小高根までまたは友愛会幹事まで

### 原稿募集！！！！

このコーナーは、患者さんが自由に利用できる楽しい1ページにしたいと思っています。

たとえば、何かサークル活動をやってみたいーなど仲間の募集、自分の趣味を紹介したい・・・、こんなことを話したいーなどなど  
なんでも結構です。是非ご寄稿を！！！！お問い合わせは編集委員会まで・・・